

徳法寺

春彼岸中日及び永代経法要

開催日 3月20日（金・祝）

午後1時より 勤行 『仏説観無量寿経』

午後2時より 講演

「安楽死について考える〜合法化された国で起こっていること〜」

講師 児玉 真美氏

午後3時より アフタートーク・質疑応答

児玉 真美（こだま・まみ）

1956年生まれ。一般社団法人日本ケアラー連盟理事。京都大学文学部卒。カンザス大学教育学部でマスター取得。英語教員を経て著述家。重い障害のある子をもつ親の立場から見た命の尊厳や、社会や医療の倫理に向き合う内容の本を多く執筆している。



講師からのメッセージ

昨今メディアでは、海外での安楽死で亡くなる日本人の事例が次々に紹介されています。欧米で合法化されているなら日本でも安楽死を法制化してほしいという声も拡がってきました。それとともに「苦しむことのない美しい死に方」というイメージが広がる一方で、安楽死とは何か、安楽死が合法化された国々でいったいどんなことが起こっているのかについて、きちんと知っている人は多くありません。安楽死に賛成か反対かを考える前に、知っておきたいことが沢山あります。海外の安楽死の実情について、具体的な事例や事件を紹介しながら、お話しできればと思います。

御伽草子と時代劇

杉谷 淨

「おとぎばなし」といえば聞いたことがあると思います。そのもとになったのが、室町時代から江戸時代につくられた「御伽草子（おとぎぞうし）」です。中でも室町時代に作られたものを「室町時代物語」とも言い、約四百種にも及びます。今でも広く知られているものとしては『浦島太郎』や『一寸法師』があります。

『浦島太郎』の元となった話は、『万葉集』・『日本書紀』・『古事記』などにも見られています。亀に変化（へんげ）した仙女と結婚し蓬莱山に住むという神婚・神仙譚でした。これが「御伽草子」では、亀を救って竜宮城に行くという亀の報恩譚となっています。

鎌倉時代後期、大量の銅銭が中国から流入したことで貨幣経済が庶民の中にも広がっていきます。これによって室町時代には土地を持っていない農民の中に経済的に自立したものが現れてきました。また、商人、職人、芸人などが職業として成立するようになります。これら新しい階層は、それまでは指示に従っていただけたのですが、自分で判断することが求められるようになったのです。そのため、経済や文字だけではなく、道徳な価値観も必要になりました。今の様な学校がない時代に、人々が道徳を学ぶ方法の一つが、寓話でした。寓話とは、神話と共に古代から世界中で作られてきた物語で、

グリム童話、イソップ童話、千夜一夜物語などが知られています。日本を代表する寓話が「御伽草子」なのです。『浦島太郎』も道徳を伝えるために、困っているものを助けると良いことがあるという物語に作り替えられたのです。

平安時代に作られた「源氏物語」の登場人物が公家であったのに対して「御伽草子」では武士・僧侶・庶民も登場するようになります。それどころか、人以外の動物や鳥、貝などが主人公のものまでつくられていきます。物語の内容としては、主人公が神仏の加護を得ることで願いを成就させるものが多いのですが、これは当時、僧侶が説教や談義を用いて庶民に布教を行い始めていたことや、寺社が縁起物語を盛んに作っていたことが影響しているようです。

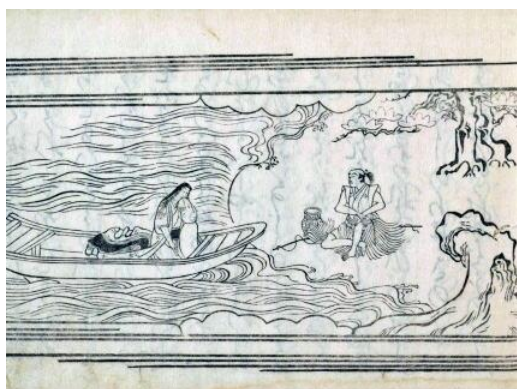
「御伽草子」の特徴の一つが、その多くの時代設定を、平安時代を中心とした過去のできごととして作られているということです。小野小町や在原業平、弁慶など、実在の人物や源平合戦などの史実を題材にするものもあれば、ただ時代背景だけを平安時代にして作られたものもありますが、いずれも昔話として作られています。皆さんが知っている弁慶の話も全て作り話です。昔話としてなら、本当の話ではなくても、作者の想いを自由に描くことができるのです。

一昨年、アメリカで徳川家康を題材にしたテレビドラマ「SHOGUN（将軍）」がエミー賞を受賞し、フランスでも草薙剛主演の「碁盤切り」をはじめ、勝新太郎の「座頭市」などの作品もヒットする

など、世界各地で日本の時代劇が注目されています。

日本では、あり得ない展開の時代劇よりも、より人間の闇の部分を描く現代を舞台とした作品が主流となっています。これは日本だけではなく、アメリカでも西部劇が衰退するなど世界的な傾向でした。しかし、現実を直視すればするほど、理想を描くことができなくなってしまうのです。その様な中で「誇り」や「誠実」を旨に、まっすぐに生きている侍たちを描いた時代劇は、多くの海外の人たちに、生きていく上での光りを示してくれたようです。もちろん、現実をしっかりと見つめる事は大切です。しかし「この様に生きていきたい」という道徳性を見失ってしまつては、生きていくことが苦痛でしかなくなってしまふのです。

室町時代の人々に、生きていく上での大切なことを教えていたのが「御伽草子」であるとすれば、時代劇は現代版の「御伽草子」と言えるのかもしれません。



御伽草子 浦島太郎

安楽死と社会

杉谷伊吹

皆様こんにちは。今年の春彼岸の講演は、講師の先生に安楽死についてお話しして頂く予定です。

近年、ヨーロッパのいくつかの国やアメリカの一部の州では「自殺ほう助の合法化」が盛んに議論されており、その流れは世界各地に広がっています。これは安楽死の一種で、医師が自殺をサポートすることを許可しようというものです。日本でも過去に安楽死や尊厳死が話題になったことがありますが、安楽死は許可されていません。しかし、世界的に広がっている合法化の流れは、遠くない将来に日本でも議論されることになると思います。

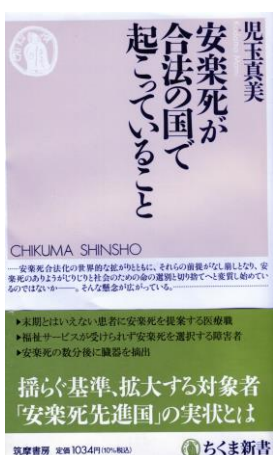
私が安楽死に強く関心を寄せるようになったのは2023年頃です。当時から若者を中心に人気があり、現在もワイドショー番組等に出演している経済学者の成田悠輔氏の、次の様な発言から起こった騒動が衝撃的だったのです。それは、日本が直面している高齢化社会について、「唯一の解決策はハッキリしている」と思っています。結局、高齢者の集団自決、集団切腹みたいなものではないか」とか、「将来的にあり得る話としては、安楽死の解禁とか、安楽死の強制みたいな話も、議論に出てくると思うんですよね」というものです。後に、成田悠輔氏はこれらの言葉について、経済分野における世代交代を促すための比喩表現であったと釈明しています。実際、この言葉は文脈の一部分を切り取ったものです

から、ここだけ読んでしまうと本人の意図とは異なったものとなってしまふのでしょうか。

しかしこの発言は、SNS上で大きな騒動へと発展していきました。SNS上での空間では、少ない文字数で強い印象を与える情報が好まれる傾向がありますから、成田氏の言葉はまさに格好の材料となりました。これらの発言は比喩表現としてではなく、文面通りの意味として受け止められ、拡散されていきました。そして、この発言に関しての激しい賛否が吹き荒れることになったのです。「まともではない」とか、「人権や生命への侮辱だ」という内容の意見が優勢だったとは思いますが、老人を排除する思想に賛同する声も決して少なくありませんでした。例えば「社会において生産や労働が出来ない存在は価値が無い」とか、「社会の閉塞感は老人達が死んでくれれば解決するはず」といった意見が目につきました。これらは、SNSが基本的に匿名であり、直情的に感想を吐き捨てるのが常態化している場であるという事と、普段は言えない本音が語られる場でもあるという事により、露見してしまつた言葉なのだと思えます。実際、生きる価値や理由を、社会・経済への貢献を軸として考えている方は大勢いるのでしよう。人は社会・経済の為に生まれてきて死んでゆくわけではありませんが、社会・経済と切り離されたところで人生が成り立たないのも事実です。そして、「命の尊厳」は目に見えませんが、資本主義社会における価値の象徴である「お金」は、悲しいぐらいにハッキリと目に見えています。実際、年金や医療費、介護費用など、命を

守るためにはお金がかかるという現実があります。ですから、安楽死を推進しようという世論も起こってくるのです。

この騒動で表面化した社会的弱者への排斥思想を目の当たりにして、一時私は鬱々とした日々を送りました。そんな中、安楽死に関して参考になる文献として紹介されていたのが、春彼岸講演で話して頂く児玉先生の著書「安楽死が合法の国で起こっていること」です。この本には実に具体的な話が詰め込まれています。世の中には既に安楽死にまつわる様々な事件が起きている事や、実際に安楽死が行われている現場でどのような問題が起こっているのかを知ることが出来ます。「安楽死で死にたい」という個人の切なる願いは否定されるものではないと思いますが、社会制度そして利害関係が発生してしまう事業として安楽死を行うとなると、どうしても危うさを孕んだものになります。安楽死に関して考える際には、まずはそのような実態を知り、安楽死が他者の欲望や社会の効率化の影響下に置かれない形で実現できるのかを、よくよく考えて議論する必要があります。があるのだと感じています。



徳法寺からのご案内

心の相談室

毎月第四土曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町商店街にある「いちよう館」二階にて真宗大谷派の僧侶による「心の相談室」を開いております。個室で相談をお受けします。仏事はもちろん、家庭や職場、学校など、どのようなお話もお聞きします。相談は無料です。予約も必要ありません。相談内容は一切外に漏れることはありませんので、お気軽にお訪ねください。

サンガ茶話会

毎月第一木曜日の午後三時から午後五時まで

横安江町にある東別院敷地内「真宗会館」一階囲炉裏の間にて「心の相談室」スタッフによる「サンガ茶話会」を開いております。座談形式となっております。僧侶やその場に集まった方々とお話しませんか。いろいろな方に聞いてほしい話、聞いてみたい話がある方はお気軽に参加してください。他の参加者の話を聞いていただけでも構いません。参加は無料です。予約も必要ありません。出入りも自由ですので、途中参加、途中退室でも大丈夫です。お茶とお菓子を用意してお待ちしておりますので、お気軽にご参加ください。

徳法寺 仏教入門講座

毎月二十一日午後七時半より

講師 徳法寺前任職 杉谷淨

三月	足利仏教 十七	織田信長 2
四月	足利仏教 十八	織田信長 3
五月	足利仏教 十九	織田信長 4

織田信長に関しては、後に作られた話が多いため、その残忍性や英雄的な行動が強調されていますが、近年、多くの歴史的検証から、少しずつその実像が分かってきました。それでもまだ分かっていないことも多く残っています。

例えば、信長が越前の朝倉を攻めた際に、信長の妹と婚姻関係のあった浅井長政が、同盟を結んでいたわけでもない朝倉に組して、後方から攻め込んだ理由も、多くの仮説は立てられているものの、明確な理由は不明のままです。

一方で、明智光秀が信長を討ち取った理由や、本願寺との執拗な戦の原因などは様々な資料の発見によって分かり始めています。三好長慶に次いで、国人として二人目の天下人となりながら、全国制覇を目前にして消えていった信長は、謎の部分も含めて人を惹きつけるものがあります。

参加費はお賽銭のみです。どなたでもお気軽にご参加ください。

編集後記

昨年まで、春秋彼岸及び報恩講は別刷りのチラシをお配りしていましたが、今回から寺報「徳法寺」の表紙でご案内させていただきます。

昨年の住職交代にともない、春秋彼岸会と報恩講の形式を一部変更することにいたしました。

前任職の時は、春秋彼岸期間中に様々な展示を行い、彼岸中日は徳法寺住職が法話を行ってまいりましたが、今回は講師を招いて講演をお願いすることとなりましたので、彼岸は一日だけの開催となります。

報恩講も、従来は講師を招いての法話と講演を行ってまいりましたが、行事が長時間になることから、聴聞される方の負担が大きくなるということで、今年は講師による法話のみにする予定です。

このような、行事内容の変更に伴い、行事案内を告知する別刷りのチラシは一旦無くし、寺報に組み込んでお知らせする、という形式にいたしました。

皆様のご意見を聞きながら、今後も柔軟に対応しながら試行錯誤をしていく所存です。今後も法要及び寺報の形式が変わっていくかと思いますが、ご了承くださいませ。(徳法寺住職 杉谷伊吹)

表題揮毫 中田 八千代

徳法寺 石川県金沢市野町二丁目三二番四号

Tel 076(241)5219

ホームページ <http://tokuhou-ji.com>